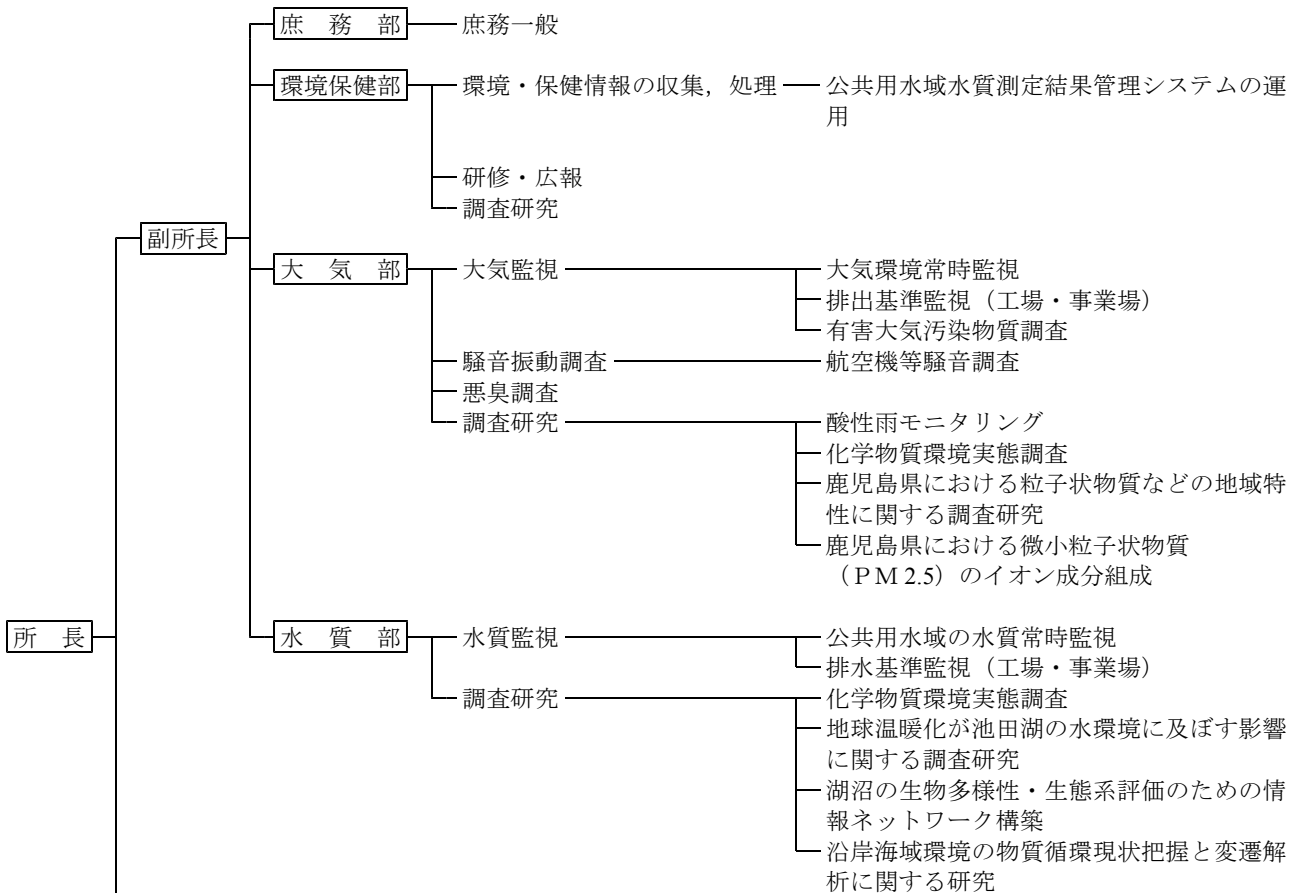


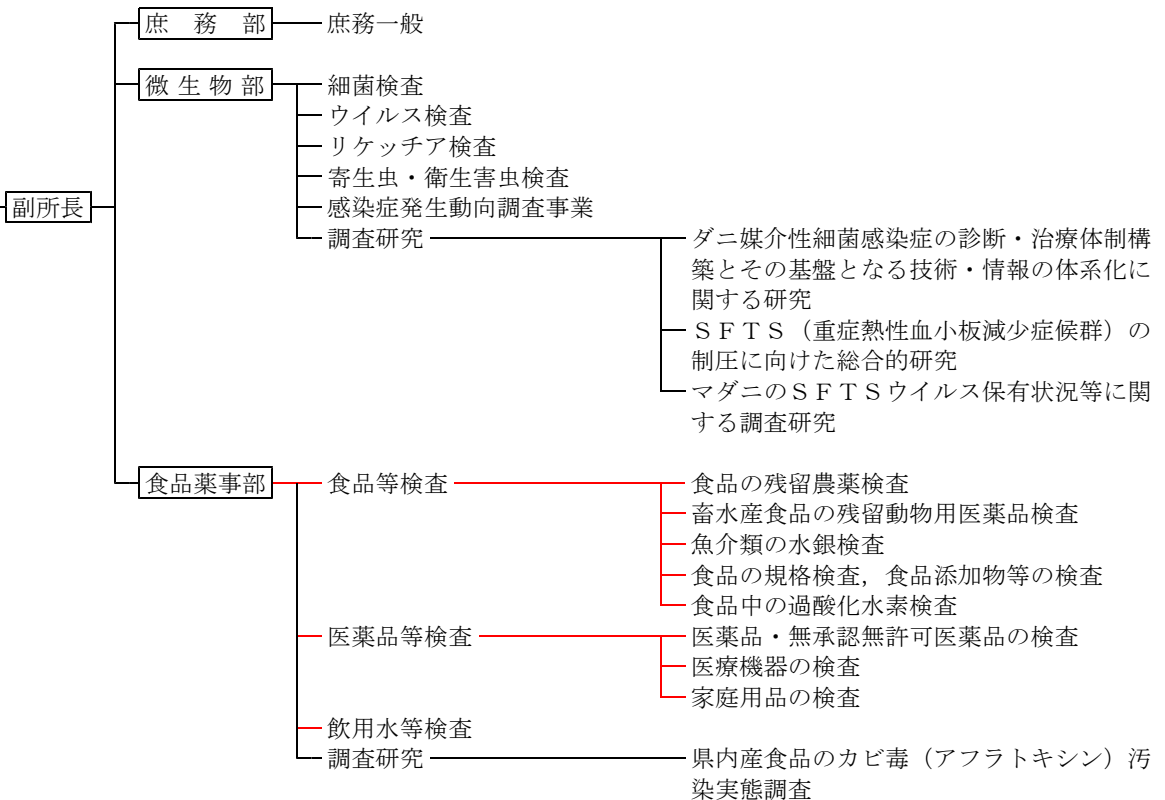
## 12 環境保健センター

### 12- (1) 環境保健センター組織

【城南庁舎】



【錦江庁舎】



## 12- (2) 調査・試験研究の概要

環境保健行政の円滑な推進を支援することを目的に、国及び他自治体の研究機関とも連携しながら調査研究に取り組んでいます。これらの結果は、所報に取りまとめ、公表するほか、学会等で発表しています。

### ① 酸性雨モニタリング（大気部）

本県における酸性雨の実態を把握するため、降水成分調査を行うとともに、発生メカニズムなどについて調査研究を行っています。

### ② 化学物質環境実態調査（水質部、大気部）

有害化学物質による環境汚染を未然に防止するためには、過去に使用されたものも含めた化学物質の環境残留性の実態把握が必要であることから、環境省の委託を受け、大気、水質、底質、生物のモニタリングや暴露量等の調査を行っています。

### ③ 鹿児島県における粒子状物質などの地域特性に関する調査研究（大気部）

浮遊粒子状物質（SPM）や微小粒子状物質（PM<sub>2.5</sub>）等の粒子状物質について、本県における地域特性を把握するため、粒径の違いや特異的な気象現象等（黄砂飛来、煙霧出現、桜島火山活動等）による粒子状物質の成分組成変動に関する調査、解析を行っています。

### ④ 鹿児島県における微小粒子状物質（PM<sub>2.5</sub>）のイオン成分組成（大気部）

PM<sub>2.5</sub>の成分分析ガイドラインに基づき、4季、各2週間サンプリングを行い、季節ごとの質量濃度やイオン成分等の傾向について挙動を調査し、本県のPM<sub>2.5</sub>の大気環境の実態把握を行っています。

### ⑤ 地球温暖化が池田湖の水環境に及ぼす影響に関する調査研究（水質部）

地球温暖化が池田湖の水環境に及ぼす影響を把握するとともに、効果的な水質保全施策の推進に資するため、池田湖の栄養塩類の挙動等を詳細に調査し、水質変動機構について解析・検討を行っています。

### ⑥ 湖沼の生物多様性・生態系評価のための情報ネットワーク構築（水質部）

全国の湖沼について、共通の生物とそれらの生育・生息に深く関係する水質や流域情報等を収録、統合化することにより、湖沼の生物多様性・生態系評価のための情報ネットワークを構築することを目的に、国立環境研究所と共同研究を行っています。

### ⑦ 沿岸海域環境の物質循環現状把握と変遷解析に関する研究（水質部）

これまでの公共用水域常時監視で調査が行われていない項目を補完・実施することにより、沿岸海域水環境構造診断のための観測方法の提案を行う目的で、国立環境研究所や他の地方環境研究所と共同研究を行っています。

### ⑧ ダニ媒介性細菌感染症の診断・治療体制構築とその基盤となる技術・情報の体系化に関する研究（微生物部）

ダニ媒介由来感染症の原因病原体となるリケッチアの遺伝学的解析方法について検討し、診断・治療体制を構築するとともに、解析結果の共有など当該感染症の予防や制御に資する情報ネットワークを構築することを目的に、厚生労働省科学研究事業に参加し、調査研究を行っています。

### ⑨ SFTS（重症熱性血小板減少症候群）の制圧に向けた総合的研究（微生物部）

平成25年度より、厚生労働省科学研究事業による「SFTSの調査研究における国内ネットワークのあり方に関する研究」分担研究班に参加し共同研究を行っています。

### ⑩ マダニのSFTSウイルス保有状況等に関する調査研究（微生物部）

平成25年4月に本県において初めて患者が確認されたSFTSは、マダニ媒介性疾患であることから、県内におけるマダニの分布状況や季節の消長及びSFTSウイルスの保有状況を調査しています。

### ⑪ 県内産食品のカビ毒（アフラトキシン）汚染実態調査（食品薬事部）

発ガン性のあるカビ毒が、県内産食品から規制値以下ながら検出されたことから、県内産食品のアフラトキシン含有量を調査するとともに、その汚染原因について検討を行っています。